

エクステリアビュー 秋号

EX.VIEW

EXTERIOR
VIEW
2006・Vol.30

INDEX

2006年 秋号・Vol.30

1-4

「空の下に 自在空間」

ミューテリアを語る

アウトテリア民園 井田洋介

5-16

事例ノート

17-20

古橋宜昌の

EXプランニング実践塾

21

秋の新商品紹介

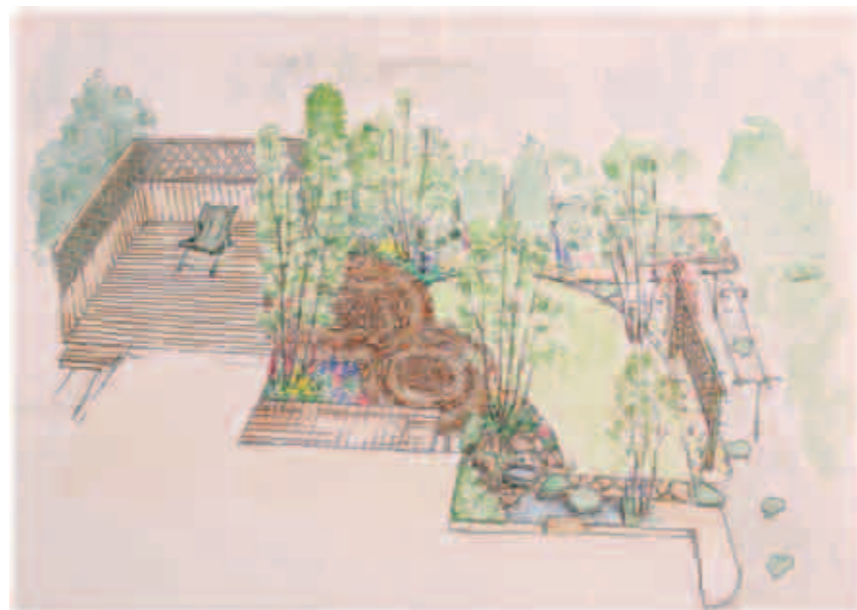
「M・シェード」ほか

22

御庭会通信



「空の下に 自在空間」という
キャッチフレーズのもと、
新しく誕生した『ミューテリア』は、
居心地のいいプレミアム新空間を提案いたします。
今回は、日本のガーデンデザイナーの
草分け的存在である
アウトテリア民園の井田洋介さんに、
空の下の空間を
いかに居心地のいいものにするか、
その極意を語っていただきます。



株立ちの雑木で奥行き感を、石組みでシャープさを出した新和風の庭。



「より自然に」が居心地のいい庭づくりの基本

井田 洋介

空の下でつろぐ縁側の空間を 30年前にデッキやテラスで提案したが

私の店は「アウトテリア民園」といいますが、この名前は、アウトドア+インテリアを組み合わせたもの。内と外をつなげ、庭をもっと快適な生活空間として活用する、という意味からつけたものです。

内と外をつなぐ空間といえば、日本には古来から「縁側」がありました。ガラス戸をはめれば温室になる、開ければ戸外の人と世間話ができる、夕立が来ても洗濯物をさっと取り込める。縁側は、そういった多様な便利さももった素晴らしい生活空間でした。

店を始めた30年前は、洋風住宅ブームで、「縁側」的なものがどんどん失われていく時代でした。そういう場所がなくなるのはもったいない、外国にはそんな空間はないだろうかと思って探してみたら、デッキやテラスがあったのです。で、当時デッキやテラスを採り入れた、アウトドアリビング的なエクステリアを提案しました。

しかし、30年前はまだ抵抗がありましたね。「そんなの雨ですぐ腐るんじゃないか」「外で団欒なんて」などと。

ところがその後、海外旅行でヨーロッパのオープンカフェなどを経験した人々が、表でお茶を飲むことは素敵だし楽しいことだと気づきはじめ、庭でつろぐことに抵抗がなくなり、デッキやテラスもだんだんと浸透してきたのです。

リビング的な使い方だけでなく キッチンやベッドルームだって可能

デッキやテラスといっても、必ずしもアウトドアリビングとして使うばかりではありません。そこにキッチンがあってもいいし、もっと進んで、ベッドルームとして使ってもいいのではないかと思います。

すでに20年ぐらい前にそういう写真を見たことがあります。アメリカのリバーサイドの別荘で、庭の一部にシャワールームがあって、その横にベッドが2台置かれていました。そこまでいなくても、広めのテラスがあれば、その一角に昼寝ができる場所をとるぐらいは容易だと思います。

余談ですが、店は湘南にあるのですが、この地の方々は海外生活経験者が多いせいか、先進性あって、新しい提案に対し

て反応が早い。デッキやテラスの提案も、海外で当たり前でデッキのある生活をしてきたため、早い時期にすんなり共感して採り入れてくれましたね。ハンギングバスケットも、素焼き鉢も、たぶんうちから始まったと思うんですが、すぐに使ってくれました。そういうところがとても面白く、現在に至るまで、私自身の刺激にもなっています。

居心地のいい庭をつくるための 「機能性」と「自然感」

居心地のいい庭をつくるために、私がポイントとしているのは、「機能性」と「自然感」です。

「機能性」というのは使いやすさや動きやすさ。ガレージなら動線がスムーズで出入りがしやすいとか、デッキなら木陰になって快適とか、そういうことです。

たとえばデッキやテラスでも、ただ庭に板を張ればいいというものじゃない。デッキには手すりがつきもの、とばかり漫然と手すりがついていて、つけないほうがいいのというものもあります。狭すぎて使いようがなく、これならむしろないほうがいい

のに、と思うデッキもあります。要するに、使うときの環境もサイズも考えていないのです。

設置場所にしても、カンカン照りのところにつくってしまいがちですが、そうすると使える時期が限られてしまいます。居心地のよさを保つには、そばに木があったり、デッキの中から木が出ていて木陰になっている、そういうことが必要になってきます。

2階のリビングにデッキをつけた場合、その下の庭が死んでしまうことがあります。そういうときは、庭の木やつる植物をデッキまで誘導して、2階で庭の緑を楽しみ、下の庭は整備してガレージとか遊び場にしてしまう、という方法もあります。

さらには、どう使うか、お茶を飲むのか、椅子やテーブルなどの家具はどうするか。広さは？目線は？「デッキだったら椅子とテーブルを置かなくちゃ」と決めつけるのではなく、あまり広くなければ家具など置かないほうがいいし、たとえば座布団だけ置いて和風に使ってもいいのです。そうすれば、狭いデッキでも有効に使えるでしょう。

また、ちょっと庇があれば、洗濯物を干したままでも出かける、そういった利便性のチェックも大切です。



石造りの階段アプローチ。両脇に生い茂る緑が美しい。



穴をあけて木立を残したデッキ。木陰を楽しめます。

「不思議なんだけれど、この庭、昔からここにあったみたい」
そう言われるのは光栄だし、
ガーデンデザイナー冥利につきますね。



芝生、石造りのテラス、木製デッキと多彩な表情の庭。



家とのバランスや緑の配合が絶妙なオープンファサード。



「作為的に「つくり出す」のではなく 「生まれ出す」のが自然感

自然感というのは、「つくり出す」というよりも「生まれ出す」というニュアンスです。意識的につくろうとしないので、投げ出すような感じ。たとえば砂利をバーンとばらまいて、落ちた位置に球根を植えるとか、ある種の偶然を取り込んでいく。人工的、作為的になりがちなところを、突き放すことで、より自然な感じに近くできるかな、と思っています。

焼き物などもそう。意識して形をつくるわけですけど、釜に入れて火の洗礼を受けると、自分の意図に反し、そのつど出来上がりが違ってきます。人間の意図や細工を超えた、自然の力。「生まれ出す」というのは、そういう意味合いです。

完成した庭を見たお客様から、こんなふうに言われることがあります。「不思議なんだけれど、この庭、なんだか昔からここにあったみたい」。それは、何の違和感もなく、自然なたたずまいを見せているということであり、私自身が心がけていること。ですから、そう言われるのは光栄だし、ガーデンデザイナー冥利につきますね。

庭づくりは「マイナス」の作業 メンテナンスなしでは美しく保てない

庭のデザインは、計画して図面にして、デッキの部材や形を考え、

アプローチの石張りや飛び石の配置を決め、つくばいを選び、そうやって仕上げていきます。そして、それに植物が入ってくることで完成します。

植物は、春には芽吹いて、夏は繁って、秋は紅葉して、冬は枯れます。春や夏に草が生い茂り木が育っていくと、デザインされた部分にかぶさっていき、自然感が増し、デザインを隠していきます。そして、秋になって落葉して、冬になって枯れてしまうと、デザインがまた現れます。

そうして、「デザイン」と「自然」がせめぎ合いながら庭の雰囲気をつくります。そのバランスをうまくとってあげるのが「メンテナンス」です。適切に手入れをすることで、快適さを保ちながら、自然感を保てるのです。

とくに木は育って高さや形を変えていくので、まめにメンテナンスをして形を整えなくてはなりません。ほったらかしにして伸び放題になってから、思いきり切りつめると、ぎこちない形になってしまったりします。

庭はメンテナンスで決まります。

庭づくりは「プラス」だと思われていますが、実は「マイナス」なんです。プラスしていくのは最初だけ。できあがった時点から後はマイナスの作業です。それが「メンテナンス」なのです。

つくることだけ夢中になって、メンテナンスが二の次になっているケースが多いですが、本当は一番大事なことです。しかし意外に見過ごされているような気がします。

いかに上手に「マイナス」していくかが、最初のイメージを保つ決め手になります。メンテナンスをおざなりにしては、庭の美しさは保てません。

庭が一番身近な「自然」 そして、それは「環境」につながる

最近の家は、高気密高断熱化が進んでいますが、そこに息苦しさを覚える人も少なくありません。暑かろうが寒かろうが、やっぱり自然の空気がいいんです。人間も自然の一部なのだから。

私は、「共存」とか「自然を保護する」とか、そういう言葉はあまり好きではありません。逆ではないかな、と思うからです。植物のほうが人間よりもずっと古いんですから。だから、「植物に人間が生かされている」と考えるほうがいいのではないかと思います。

庭というのは、一番身近な「自然」です。

そればかりでなく、もう一歩進めていくと、「環境」につながっていきます。もともとは個人的な空間であるけれど、ある程度植物が育っていくと、その木々は個人の家を超えて、町並みをつくっていく。ですから、エクステリアをつくるみなさんは、そういった視点で、自負と責任をしっかりとってプランしていただきたいと思っています。



いだ・ようすけ
井田 洋介 ガーデンデザイナー、園芸研究家

1944年11月、大阪生まれ。
東京都立園芸高校卒業。
造園と園芸の店「アウトテリア民園」主宰。
ガーデンデザイナー、グリーンコーディネーターの
草分け的存在として、ガーデンデザインや
コンテナガーデン指導のほか、
NHK「趣味の園芸」「私のガーデニング」や雑誌、
講演など幅広く活躍。

主な著書

- 「リビングガーデン 庭で素敵に暮らす」長岡書店
- 「新・庭のデザイン実例集5」
- 「小さなグリーンのある暮らし」家の光協会
- 「コンテナガーデン」NHK趣味の園芸別冊
- 「グリーンを楽しむ」コスモビルズ
- 「小さな庭で楽しむ花」
- 「エクステリアで楽しむ花」NHK出版
- 「園芸ミニ百科」ひかりのくに

次回から3回にわたり、井田洋介さんの実戦講座「居心地のいい庭づくり」をお送りします。
第1回は「アウトドアリビング」のヒントが満載。お楽しみに！

ショップを増やして地域密着の商売を。
「ユーザー様は将来の見込み客」と
アフターフォローにも力を入れています

創業は31年前でした。当時は高度成長期。日本全国の山が削られ、団地やゴルフ場になっていました。そんなとき、『世界環境宣言』という本を読んで「地球が病んでいる」と実感。もともと住宅関連の仕事をしてきたこともあり、造園業で環境を再構築したいと大志を抱いたのです。しかし当時庭づくりは植木職人の仕事で、なかなか事業として成り立ちませんでした。次第に公共工事やハウスメーカーの紹介が増えてはきましたが、今後はエンドユーザーのお客様と向き合うことが必須と考えて、7年前から「グランド工房」という名前でショップ展開をスタートさせました。ショップは現在新宮町、宗像市、筑紫野市、熊本市の4つ。今年中に北九州市にも1店オープン予定です。ショップをたくさんつくるのは、そのエリアで密着した商売がしたいのと、お客様に気軽に立ち寄ってもらいたい。いずれも展示場を充実させ、お客様が実際にイメージしやすいようにしています。ショップに呼び込む広報活動は、毎月の新聞折り込み広告、タウン紙、地元テレビなどで行っています。スタッフは、各店とも店長以下4~5名。実績は全店合わせて月に30~50件ほどで、そのすべてがエンドユーザーのお客様です。とはいえ、一連の仕事が終わってからが本当の勝負。お客様がリピーターになってくださらなければ、長い目で見て将来はありません。ですから「最初のお客様は将来の見込み客」と考え、5年の無償点検と、「モールドクラブ通信」というユーザー情報誌を年4回発送するなど、アフターフォローにも力を入れています。また、スタッフのレベルアップも大切。日本各地の名園を見る研修旅行や、展示会などへも積極的に参加させています。30年前は漠然としていたエクステリア業界も、いまではすっかり市民権を得ました。しかし今後も時代の変化を読みながら一歩先を歩み、業界の発展と環境への貢献をめざしたいですね。



代表取締役社長・中村和男様



各ショップの入り口には「グランド工房」のロゴマークが。



新聞折り込み広告「Ground Press」では、各ショップのイベント情報や実例紹介など、さまざまな記事を盛り込み、ご来店をはかっています。



中村様がエクステリアのノウハウを盛り込んだ「ちえちえ大事典」も用意。来店客に無料で差し上げています。



きれいに整理された「施工実例集」や「プランニング集」も揃っています。予算に応じて分類されているので参考にしやすい。



店内にはタッチパネルの大画面モニターも設置。施工実例写真をチェックしたり、おすすめ商品、工事、メンテナンス制度といった情報も見ることができます。実例写真はHPにも掲載。



「グランド工房 スタッフ紹介」。お客様に親しみをもってもらいたくために、各店内に貼られています。

グランド工房
新宮店

オープン7年。リピーターも多く
地域でも信頼されてきています

ここ新宮店は、平日は5~6組、休日には10組以上のお客様が来店されます。エクステリアに関して何かしら具体的な興味や目的があって来られる方が多いので、話を伺って、その質問や疑問にきちんとお答えできるよう心がけています。それがおつき合いの第一歩ですから。



プランナー・五十嵐聖子様

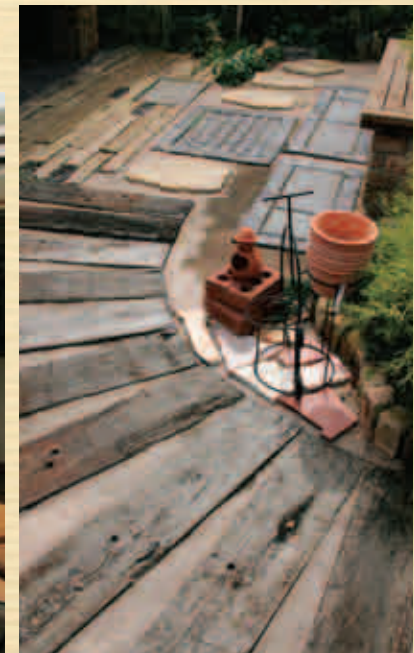
当社は、1人のスタッフが一貫して下見・話し合い・プラン・施工立ち会い・引き渡しまで行いますので、お客様は安心されますね。とくに新宮店はオープンから7年が経って地元でもすっかり認知され、リピーターも多く、お客様からも信頼されるようになってきているのを感じます。



屋根つきのテラスでアウトドアの団楽を提案。



新素材の紹介も。発泡スチロールの表面をセメントで固め、着色した「アートワーク」という手法の二セ岩。軽くて施工がラクなのが特徴。



さまざまな床材を展示したコーナー。お客様から「これを使ったらいくらになる?」などと具体的な質問が。



レンガ造りの小屋や、石造りの犬小屋も「アートワーク」。ベニヤのコンパネに薄くセメントを貼っただけなので、簡単につくれます。



花苗や鉢、エクステリア小物などの販売コーナーも。

グランド工房 宗像店

300坪の広さを生かした展示が盛りだくさん
お客様に喜んでいただける対応を!

2年前にオープンした宗像店は、360坪という広さが魅力。平日でも7~8組、休日は10組以上のお客様が来店。初来店のお客様には花の苗をプレゼントしています。



プランナー・岩崎巧様

当店の展示場は、どのコーナーも具体的な生活提案を盛り込んでデザインしています。一番のおすすめは、デッキ+庭を4パターン見せてくれるコーナー。それぞれのデッキの素材やスタイルの違い、その先に続く庭の雰囲気などを、実際の建物で体感しながら比較できます。

私はこの4月に入ったばかりの新人ですが、エクステリアの仕事は、お客様に「感動」を提供できるやりがいのある仕事だと思っています。最近のお客様は非常に目が肥えていて情報も多く、きちんとした専門知識がないと対応できません。もっとも勉強して、今後「よかったよ!ありがとうございます」と言ってもらえるように一生懸命対応していきたいですね。



左から、伊東紀和様、脇坂圭様、岩崎巧様



すがすがしいシダー材のコンサバトリーは、ご相談スペースとして活用。



新和風のコーナー。庭の一面に「和」をつくりたいときの参考に。



エクステリア関連の雑貨も豊富に用意。



芝生の庭は「わんわん広場」と名付け、ワンちゃんとお子さんの遊び場に。

デッキ+庭のバリエーションが4パターン見られる!

1つめのデッキは、天然石張り。ややクラシカルで大人っぽい雰囲気を満喫。



1

3つめのデッキは、グレイッシュなアイアンウッド。モダンでシャープ。和風にも使えそう。



3



デッキから見る庭の提案も楽しい。これはタイルを円形に敷きつめて、回廊スペースに。



この長い廊下の左側には、4パターンのデッキと庭がつくられています。



2つめのデッキは、節が印象的なレッドシダー。ナチュラルで素朴な空間に。



4つめのデッキは、木樹脂を使用。木の風合いをもち、腐食に強いのが魅力。



庭から見たデッキ。実際の住まいのようにつくってあるので、さまざまな角度から眺めて実感できて、プランの参考になると好評。

事例ノート

大阪府岸和田市
花椿様

動線、使い勝手、そしてデザイン。
「本物」をつくるために妥協せず
お客様のマイ・ストーリーをつくる。



代表取締役・迫田宗人様

5年前、それまで勤めていたエクステリア・リフォームのショップから独立して当社を創業。当初からエンドユーザーのお客様だけを相手にしようと決め、新聞折り込みチラシを年に10回打ちました。それが次第に実を結び、チラシを読んで「この店にやってもらいたい」とお客様が来店されるようになってきました。



当社のモットーは、お客様1人1人異なるニーズを的確に引き出して、お客様のマイ・ストーリーをつくること。まずは動線や使い勝手を考えます。水道・電気・収納など室内で便利なものは、外にも必要。たとえば散水するためには水栓はどこに必要か、など、水道や照明の位置もしっかりチェックします。そして、そういった機能性にデザインをさせて仕上げます。

良いデザインとは、形だけではありません。妥協せずじっくりと質の高いプランニングをしていきたいし、本物の仕事をすれば、それがお客様にも通じる、そういう信頼関係が大切だと思います。図面もパースも手描きです。これは私のこだわりで、キャドはまだ使ったことがありません。手描きのほうが「かゆいところに手が届く」感じがするし、お客様からも好評です。しかも、最初は定規を使って線を引いていたんですが、いまはフリーハンドで、より味のあるラインを出すようにしています。

スタッフは、営業3名、デザイナー1名、事務1名。実績は月に4~5件です。お客様はほとんどがエンドユーザーで、80%が新規、残りがお客様からの紹介です。

今後は「内容がよくて価格がリーズナブル」というのを、もっとめざしていきたいですね。たとえば無機質なコンクリートブロックを使って、安くてもいいデザインのエクステリアを考えるとか。広報活動は、引き続き折り込みチラシを続けることと、1年前から始めたHPを充実していきたいですね。また、アフターサービスまでなかなか手が回らないのが現状なので、今後の課題にしたいと思っています。



小ぶりながらセンスのいいショップの外観。



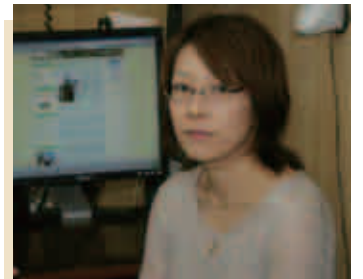
左上から、営業・庭園管理主任・巳浪哲也様、迫田宗人様、チーフデザイナー・松本貴和子様、営業部長・廣末佳明様。



事例ファイルと新聞折り込みチラシ。チラシはモノクロで一見地味ですが、デザインへのこだわりや、プロのアドバイスなど内容が濃く、チラシがきっかけで来店されるお客様も。



図面もパースもすべて手描き。とくにパースは、味のあるフリーハンドにこだわっています。



奥様の取締役・迫田智子様は、ブログ作成を担当。

庭に芝生と敷石、「ナチュラル」とベンチで団楽

K様邸

門やフェンス、カーポート、アプローチなど外構は既存。庭づくりのみを手がけました。「芝生の庭とテラスが欲しい。木を要所要所に配置してほしい」との要望にそって、リビングの窓先には「ナチュラル」を設置。庭には芝生を植え、敷石で美しい路とベンチをつくったため、家族が外で団楽する機会が増えたそうです。



【ナチュラルのテラス】
木質感がやさしい「ナチュラル」のテラス。床と手すり部分は天然木でできています。



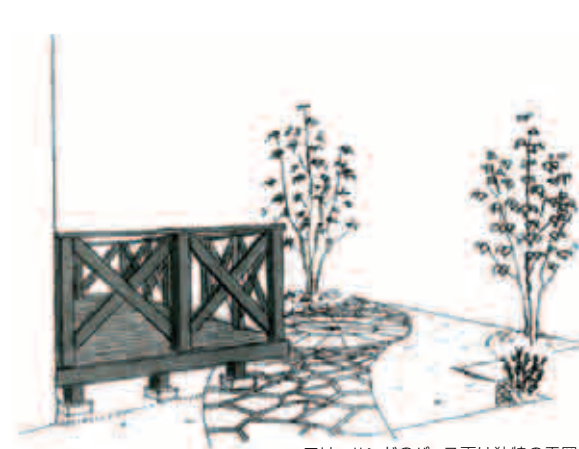
【エクステリア全景】
ベージュ系を基調にした外観。ナチュラルの納まりもよく、バランスのとれたエクステリアです。



【道路から庭とテラスを見る】
要所要所に植えた樹木が目隠ししてくれるので、道路からの視線を気にせずくつろげます。



【テラスから庭を見る】
テラスとベンチでコミュニケーションが取れます。両方のスペースを使えば、戸外でのホームパーティも。



フリーハンドのパース画は独特の雰囲気があり、お客様のイメージをふくらませる手助けを。



【敷石の小径】
芝生の庭の入り口から奥まで、くねりながら続く敷石の小径。

【敷石からベンチへ】
四角や円形など美しい形で続く敷石。芝生の中を歩き、団楽できる楽しい庭です。



【エクステリア全景】
左右いっぱい伸ばした「U.スタイル」のダイナミックな梁が印象的で、最初からプランしたように美しく調和。軽快なアーバングレー色なので、敷地いっぱい使っても重く感じず、建物の色ともよく合っています。

駐車場とアプローチをU.スタイルで機能的に

N様邸

限られたスペースのフロントヤード。アプローチや駐車場はすでにできていて、屋根付きのカーポートのみをご希望。そこで、敷地対応性の高い「U.スタイル」を敷地いっぱいに使い、カーポートとアプローチの両方にそれぞれ屋根を設置しました。機能的で、しかも統一感のあるエクステリアになって、施主様もご満足とのことでした。



【玄関アプローチ】
U.スタイルならではの自由な屋根使い。アプローチの上にはフラットな屋根パネルを使用。駐車場から玄関まで濡れずに歩けます。



塀にはいたるところにリズムカルな穴があいていて、庭の気配を感じさせ、軽快なアクセントに。



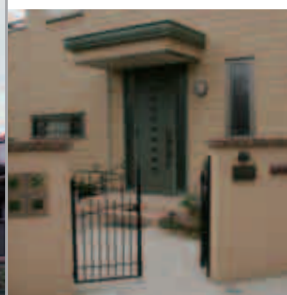
【門まわり】
塀は塗り壁に穴あきブロックを組み込んで、おしゃれなアクセントに。門扉は「プロヴァンス1型」を採用。

古い和の庭を融合。バリアフリーのエンタランスも

Y様邸

住まいを全面建て替えたY様邸。「古い和の庭を残す。2台分の駐車場。一部にバリアフリーを」といった条件で、エクステリアも一新。和と洋がうまく調和した落ち着いたたたずまいに仕上がりました。アプローチは2通りつくられ、片方は玄関脇からスロープでスライド門扉にいたるバリアフリー設計。万が一車椅子などが必要になっても対応できます。この要望は、施主様の息子さんの心遣いだったとか。

【外観全景】
オレンジベージュの建物に、あえて同系色でなく白い塀を組み合わせたため、メリハリが出て、クラシカルななかにモダンな味わいも。塀は場所によって高さを変え、庭を絶妙に見え隠れさせています。



【門から玄関へのアプローチ】
門と玄関の角度を変え、アプローチを曲線にすることで、距離感が出ています。



【和の庭】
左側に見えるのが既存の和の庭。新しい門や塀とも調和した、なつかしい和洋折衷空間に。



【バリアフリーのアプローチ】
駐車場脇の門から玄関までのアプローチは、段差なしのスロープになっています。スライド門扉「カムフィ1型」は下にレールがなく、車椅子などを使っても引っかかる心配もなし。

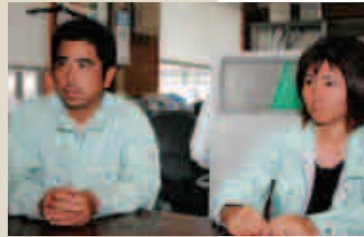


【カーポートとスライド門扉】
カーポートは「カムフィR」、跳ね上げ門扉は「エクモA1型」。



1に強度(安全性)、2にデザイン、3に満足。
営業・設計・施工・アフターまで
お客様とトコトンつき合って信頼感を

当社は創業48年。もともとコンクリートブロック製造と鉄工が主体で、塀や門などを施工していました。20年ほど前に父が社長になってから、鉄工部門とともに、エクステリア全般の設計施工を手がけるようになり、私たちはエクステリア部門を担当しています。



エクステリア部門を担当している有吉哲郎様と姉の堀内佐夜子様

私は5年前に入社。それまで機械設計をしてきて、エクステリアのことは1からのスタートでしたが、職人さんや周囲に教わりながらやってきました。この仕事は、お客様の反応が良きにつけ悪きにつけ直接返ってくるので面白く、とくにお客様にご満足いただけたときは本当にうれしいですね。



代表取締役・有吉勝様
エクステリアの仕事は基本的に2人のお子様任せ、ご自身は会社全体の統括に専念。

店の奥にはエクステリア展示コーナーがあります。新しい素材やデザインをすぐにご紹介できるように、床材はただ並べただけで施工せず、こまめにリニューアル。また、2部屋ある相談ルームの隣にはキッズルームも設置。お子さんを目の届くところで遊ばせながら、じっくりご相談ができると好評です。

新規のお客様の開拓は、隔週の「てい〜たいむ」、年2回の「サンデー周南」といったタウン紙への広告が中心。タウンページにも広告を載せています。

スタッフは7名、うち営業は姉と私の2名です。営業といっても、設計・現場の施工管理・引き渡し・アフターまで一貫して担当します。そのため手離れは悪いですが、お客様との信頼関係がしっかり築けます。現在のお客様の内訳は、エンドユーザーが9割以上で、その半分は紹介とリピートというのも、こういったお客様との付き合い方が理由かもしれません。実績は、月に1人あたり大小含めて10件前後です。

アフターサービスは、とくに決まったことはしていませんが、「何かあったらいつでも連絡してください」と言ってあり、電話があったらすぐにフォローするようにしています。

当社のエクステリアの特徴は、見かけの美しさだけでなく「安全な構造」「使いやすい構造」を両立させること。お客様が安心して気持ちよく暮らせるものを提案していきたいですね。



【エクステリア全景・左から】
カーポートは「Uスタイル」。ダイナミックな8m間口で、車3台がゆったり入ります。伸縮式カーテンゲートで長い間口をしっかりとガード。

【塀使いのテクニック】
塀に高低をつけスリットを入れたため、クローズなのに庭の気配が感じられます。奥に見えるのはテラス囲い「プレオーレ」。

【曲線のアプローチ】
S字に曲がりくねって玄関にいたるアプローチ。生け垣で奥の部屋の目隠しをしたり、和のコーナーを設けたりして変化をつけ、訪れた人の目を楽しませる演出を。

ダイナミックな8mカーポートと2種類の塀がアクセント
K様邸

「車は3台駐車。庭はクローズにして、耐久性の高い素材を使ってほしい」というお客様のご要望にこたえたプラン。塀に高低をつけスリットを入れることで、クローズではあっても庭の気配が感じられる、閉鎖感のないエクステリアになりました。カーポートにUスタイルを採用したのは、デザインや機能だけでなく、耐久性も自信を持ってお勧めできるため。庭のテラスも、タイル+樹脂など耐久性の高い素材を使っています。庭いじり好きのご主人も大満足の庭です。



【エクステリア全景・右から】
塀は2種類の素材を使い分けて色・質感・デザインに変化をつけ、ファサードのアクセントに。門扉は「ジョイラルA型」。



【2種類のテラス】
リビングの前の庭には、デッキINタイプの「プレオーレ」とタイルのテラスを設置。2種類のテラスで団楽を楽しめます。



【テラス囲いから庭を見る】
光と風が心地よく、サンルーム感覚で楽しめる「プレオーレ」。雨に濡れる心配もないので、洗濯物を干すのにも最適。



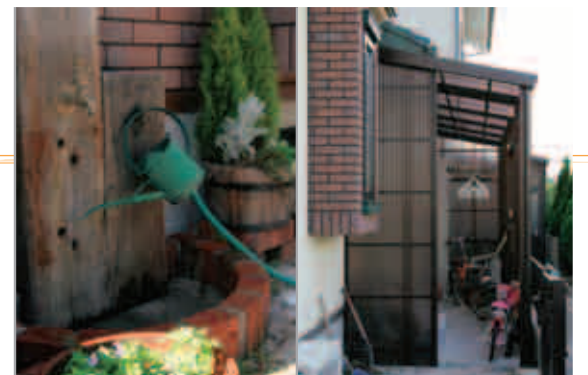
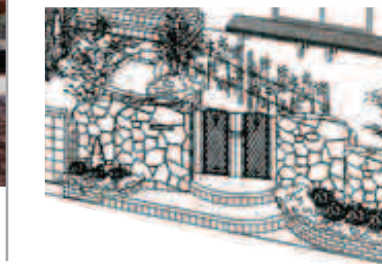
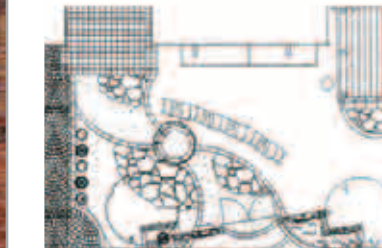
【アプローチと前庭】
石張りの門柱と枕木を組み合わせた、アンシンメトリーな門が印象的。低く組んだレンガ塀の奥に見える前庭は、まだ手を入れていませんが、今後の2期工事で、レンガと枕木を組み合わせたおしゃれな庭になる予定。



【レンガ塀にワンポイント】
段々をつけたレンガの塀。ところどころに埋め込まれたフェイスレンガのユーモラスな表情がアクセントに。

レンガや枕木でナチュラルな門まわり
H様邸

フェンス全体を低めにし、レンガや枕木をあしらひ、おしゃれな雰囲気仕上げたH様邸。前に用水路があり、橋がかかっている車の進入路が限られるため、駐車場は実際に何度も車を出し入れする実験をしてスペースを決めました。共働きの奥様のご希望で、洗濯物を干したまま外出できる「テラス倉庫」を裏庭に設置しました。



【立水栓】
枕木とレンガを組み合わせてつくった立水栓。庭いじりが楽しくなりそう。

【テラス倉庫】
家の裏手には、山口県特有の「テラス倉庫」。「テラーネZ」の屋根を使って設置。自転車置き場に、洗濯物干し場に、物置にと重宝。将来、扉ドアを取り付けることができる寸法になっています。

展示コーナー



アプローチ・階段・塀などを、さまざまな素材・デザインで紹介。

床材は並べただけなので
つねに新しい提案ができます

広さは120㎡と狭いですが、レンガやタイル、石材、ブロックなどを実際の庭のようにコーディネート。床材は施工せず並べただけのコーナーが多いので、簡単に変更できて、つねに新しい商品やデザインを提案できます。エクステリア小物を集めたグッズコーナーもあります。



和のヒントになりそうな坪庭コーナー。



植木鉢やガーデン小物をたくさん集めたグッズコーナー。



さまざまなレンガや天然石を並べた床材コーナー。



商談ルーム。隣にはキッズルームがあるので、お子さんを遊ばせながら相談できます。

営業ウーマンDiary

エクステリア業界の元気なワーキングウーマンをご紹介します。
今回は、営業から設計・施工管理まですべてをこなす、
ガーデランドすえたけ・堀内佐夜子様のご紹介です。



ガーデランドすえたけ
営業担当・堀内佐夜子様。
忙しい時でも
笑顔を保ちます。

継続こそ力。感謝もクレームもありがたく受けとめて

SPから転職。 家業の手伝いからハマる

大学卒業後、大阪でセールスプロモーションの仕事をしましたが、3年で見切りをつけて13年前に帰郷。資格を取るため勉強中に、家業を手伝ったら…面白くて、ハマってしまったんです(笑)。自分が考えたことが、具体的なカタチになり、結果が見える仕事。しかも、お褒めの言葉もクレームもストレートに返ってくる。非常にありがたく、やりがいのある仕事だと思います。



立ち寄ったお客様宅で庭木のチェック。
こういったアフターフォローもつねに心がけています。

朝は5時半起き、 夜は9時まで打ち合わせも

一日のスケジュールは、かなりハードです。起床は5時半。朝食の支度をしながら洗濯物を干します。家事は主人もやります。そして一家で朝食。7時半ごろ、祖父母の住む隣家に子ども2人をあずけ、私はそのまま出勤。子どもたちはそこから学校や保育園に行きます。会社は8時からで、午前中は現場を3~4件まわります。昼にはいったん戻り、伝言などをチェック。午後は引き続き現場まわりや、アフターフォ

ロー、見積りなどの折衝など。そして、午後5時に現場から戻った職人さんたちと、明日の段取りを確認。

お客様との打ち合わせは、おもに6時以降から8時9時までかかります。打ち合わせのない日はプランを考えたりで、なかなか早く帰れません。なので、子どもたちはおばあちゃんのところ夕食を食べることが多いです。

主婦&母親の目線で、 働く女性を応援

最近、エクステリアに関心をもつ奥様が増えています。同じ主婦として、「生活の場」としての機能性を大切にしたいと思っています。とくにバックヤードは、山口県では「テラス倉庫」というウォークイン・クローゼットの物置が必需品で、いかに使いやすくプランするか、主婦&母親である経験が生きてきます。

また、共働きの大変さを身をもって知っているのも、機能的で居心地のいいエクステリアを提案し、忙しい女性を応援したいですね。いまは仕事と子育てでしんどい毎日ですが、止まったら終わり、継続こそ力、と頑張っていきます。



プランナーと打ち合わせ。
設計内容を検討し、
練り上げていきます。



スケジュールのチェック。
スムーズに進行させるため毎日綿密に確認。



広報も担当。タウン紙の広告は、「30%オフ」といった価格訴求から、現在では「スペースの悩みを解決」「快適な生活提案」といったプラスアルファで女性層にアピール。



事例ノート

三重県鈴鹿市
ガーデンハウス広洋 様

展示場やHPでお客様を呼び込んで、 汚れも味いになる木材で 「貴方のためのエクステリア」を

20年前に父が創業。私は全く畑違いの仕事をしていましたが、15年前に戻り、数年間よそで修行をしたのち入社しました。当時はほとんどがハウスメーカーの下請けでしたが、これからはエンドユーザーのお客様を相手に、地域に根付いた仕事をしていかなければと考え、いろいろと試行錯誤中の現在です。

まずは、お客様が実際の庭づくりの参考にできるようにと、3年前に200坪の展示場をオープン。そして新聞折り込み広告を2カ月ごとに打ちました。しかし費用がかかるわりに効果が少ないので、いまは休止中。そのかわり、確認申請をした家へDMを入れています。また、HPを立ち上げて実例などを紹介。それが来店へのきっかけになっているかどうかはわかりませんが、あとあとお客様にお聞きすると、HPはチェックされたという方が多いので、なんらかの効果はあるんじゃないかと思っています。

現在は、エンドユーザーの割合が20%ぐらい。まだまだですが、だんだん増えているので、今後は50%ぐらいにしていきたいですね。

お客様に対しては、最初の話し合いのなかで、生活スタイル



専務取締役・安田貴世様 代表取締役・安田峰子様
「スタッフ(営業、プランナー)を募集しています」

とか趣味・好みなどをできるだけ聞き出し、通りいっぺんでない「貴方のためのエクステリア」をつくるように心がけています。素材では、木材・天然石・塗材などをよく使います。スタッフは、社長以下、営業1名、プランナー1名、ハウスメーカー担当1名、作業担当3名です。図面は私とプランナーが描きますが、すべて手描き。かえって新鮮なのか反応はよく、工事が終わったあとお客様宅に訪問したら、カーパーズが飾られていたなんてこともありました。今後は、HPをさらに充実させて、グッズなどをネット販売したいですね。また、エンドユーザーのお客様はリピート率が高いので、アフターサービスにも力を入れていきます。

展示場

時代に左右されないものを提案。グッズも充実しています



塀と床のサンプルを展示。
一般のお客様だけでなく、業界の人にも好評だとか。



木製デッキとプランク。
家族の楽しいくつろぎ空間を演出。



店内は、楽しいエクステリア&インテリア雑貨も充実。



丸いテラスにオリジナルの木製ベンチで、
アウトドアの家族団楽を提案。

見せる・隠すのメリハリをつけたリフォーム

〇様邸

施主様からの要望は「クローズにして、外からリビングへの視線を遮ってほしい」。しかし、ただクローズにしてしまわず、庭の見せてもいい部分と隠したい部分に合わせて、塀の高さや材質を変え、メリハリをつけました。庭にはベンチや大きめの立水栓を設置して、ご家族が楽しめる空間に。



【塀の段差】
リビング前の塀は一段高くなって、視線を遮り、プライバシーを守っています。



【塀の裏はベンチに】
リビングの窓の外に、濡れ縁と対面するように設けられたベンチ。お子さんが外遊びで利用したり、プランターを置いても。



【思い出の手形】
塀にはめ込まれたガラスブロックは、内側にお子さんたちの手形が彫られています。家族の大切な思い出になる、遊び心たっぷりのアレンジ。



【エクステリア全景】
建物の壁面と塀の色を一緒にせず、それぞれの色が引き立つような組み合わせに。塀の塗り壁と木製のコントラストが美しいアクセントになっています。



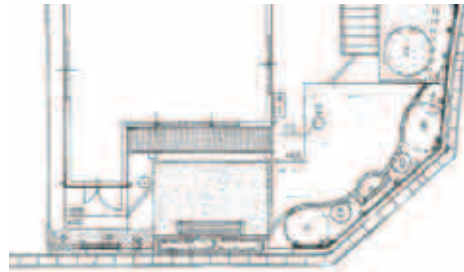
【門まわりの工夫】
スペースのない門まわりに重宝な引き戸の門扉。門柱の下の小窓は、この位置に水道メーターがあるため。こうすれば水道の検針も外からできるし、おしゃれなフポイントにもなり一石二鳥。



【オリジナルの立水栓】
奥の芝生の庭には、レンガを積んで立水栓をつくりました。夏はお子さんの水遊びの場にも。



BEFORE



【エクステリア全景】
白い片側門柱と、グレイッシュな木製のタテ柵の塀、そのコントラストが美しいエクステリア。穴あきブロックの透けた感じが軽快。

透かしの塀、遊び心の和の庭

H様邸

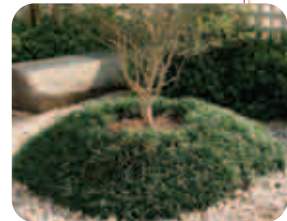
写真館を経営する施主様は、広い敷地の奥にはスタジオも併設。敷地内に車が入り出すので、目隠しの塀を設けました。ただし圧迫感がないように透けたものを使用。エクステリアは基本的に「全部おまかせ」だったので、和の庭など遊び心たっぷりに提案しました。今後、あいている敷地に野外スタジオとしてパティオをつくる計画もあるとか。



【新感覚の和の庭】
長方形の石は六方石、ベンチにも使えます。水鉢をつくばいふうに置いて雰囲気づくり。



【丸瓦+白砂利でアクセント】
和の庭の砂利には、こんな遊び心も。丸い瓦の中に白砂利を入れて。



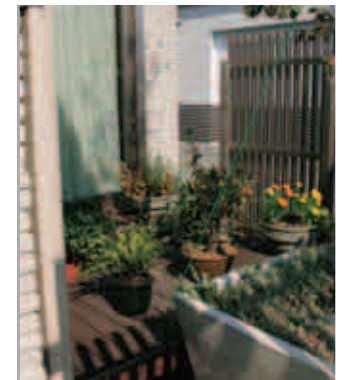
【和の庭の植木】
植木の植え方もユニークで、オブジェのよう。



【片側門柱】
2枚の高低差がリズムカルな門柱。玄関のさりげない目隠しも兼ねています。



【タテ柵の塀とリビングデッキ】
外からの視線を遮りながらも、柔らかな曲線と透かし具合が絶妙で、重くならない仕切り。タテ柵の塀の内側は、樹木の大鉢とリビングのデッキがあります。



【タテ柵の塀とリビングデッキ】
外からの視線を遮りながらも、柔らかな曲線と透かし具合が絶妙で、重くならない仕切り。タテ柵の塀の内側は、樹木の大鉢とリビングのデッキがあります。



端正なモノトーンの新和風エクステリア

K様邸

「古民家風の建物に合わせた雰囲気」という要望にそって、モダンな新和風のエクステリアを提案。プランは何社か競合しましたが、デザインが一番気に入ってくださり、実現にいたりました。家のデッキに使った木材の廃材を利用して、フェンスをつくったことも評価されたようです。建物のダイナミックさを生かしたシンプルなおープン外構です。



【門から玄関へのアプローチ】
白い塗り壁と枕木をあしらった端正な門柱が印象的。曲がりくねった道なので、玄関までの奥行きが深く感じられます。



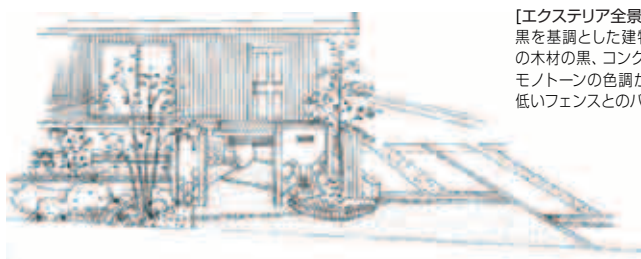
【ブロック塀の笠木】
ブロック塀の上にはデッキの廃材を利用して、笠木ふう。こうするとブロック塀もチープに見えず、ナチュラルで落ち着いた雰囲気のお庭に変身。



【植え込みの緑石には瓦】
塀の外側は植物の植え込みに。緑石には屋根瓦が使われ、和の雰囲気をつくっています。



【デッキの廃材をフェンスに】
家のデッキに使って残った廃材を、横木として再利用したフェンス。デッキとの統一感も。



【エクステリア全景】
黒を基調とした建物に、門柱の白壁、要所要素の木材の黒、コンクリートや砂利のグレーなど、モノトーンの色調が絶妙に調和。大きな屋根と低いフェンスとのバランスも見事です。

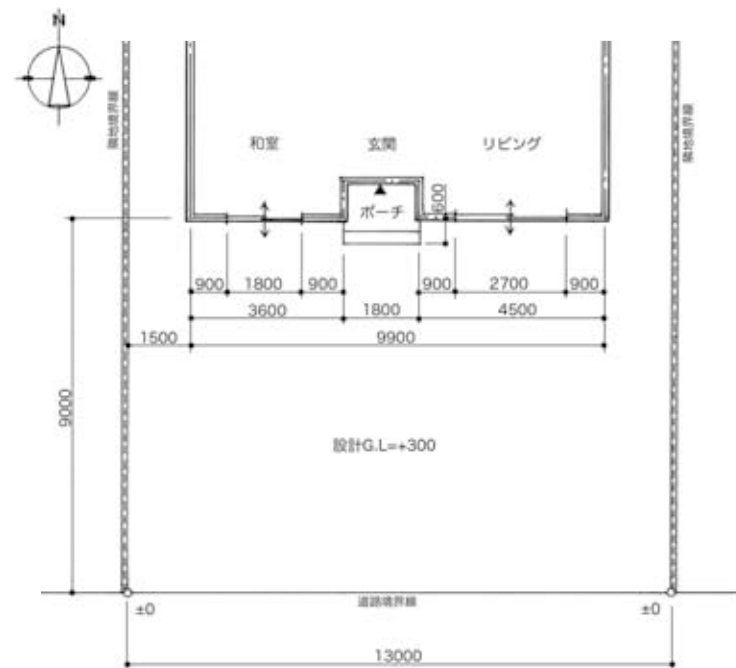
古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第2回

前回の課題の確認

まずは前回、課題とした敷地の条件について、再度確認しておきましょう。
敷地の条件としては南入りのプランとなっており、道路と敷地の高低差は300mmでした。道路面の間口寸法は13mで、施主の要望としては

- 外構スタイルとしてはクローズスタイルを希望。
- 車1台分の駐車スペースと屋根(カーポート)が必要。
- リビング前にはウッドデッキと4歳の子供のための砂場が欲しい。

となっていました。
みなさんはどのようなプランを考えられましたか？
模範プランを使って考え方やポイントを解説していきます。
ご自分で考えられたプランと比較しながらご覧ください。

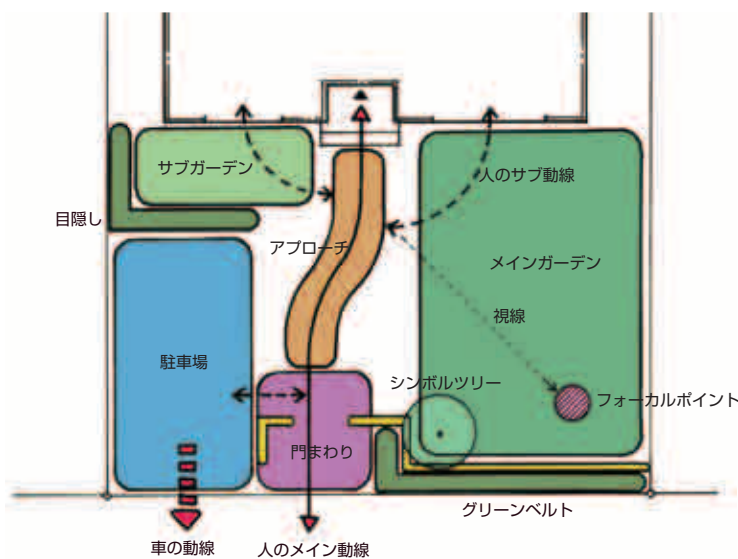


ゾーニング

今回の模範プランは次のようなステップでゾーニングを考えてみました。

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| Step 1.
駐車場の位置 | リビング前をメインガーデンとして確保するため、西側隣地境界に配置。 |
| Step 2.
門まわりの位置 | 駐車場に隣接させることでコンパクトに、そして使い勝手のよいものに。 |
| Step 3.
アプローチのイメージ | 玄関ポーチと左右にすれているので緩やかな曲線を入れた変形クラックに。 |
| Step 4.
塀、グリーンベルト | ファサードで残っている部分は塀で囲い道路側にグリーンベルトを確保。 |
| Step 5.
メインガーデン | リビング前をメインガーデンとして、デッキ、砂場などを提案。 |
| Step 6.
サブガーデン | 和室前を落ち着いた坪庭として提案。 |

最後に動線を入れてゾーニング図を完成させます。

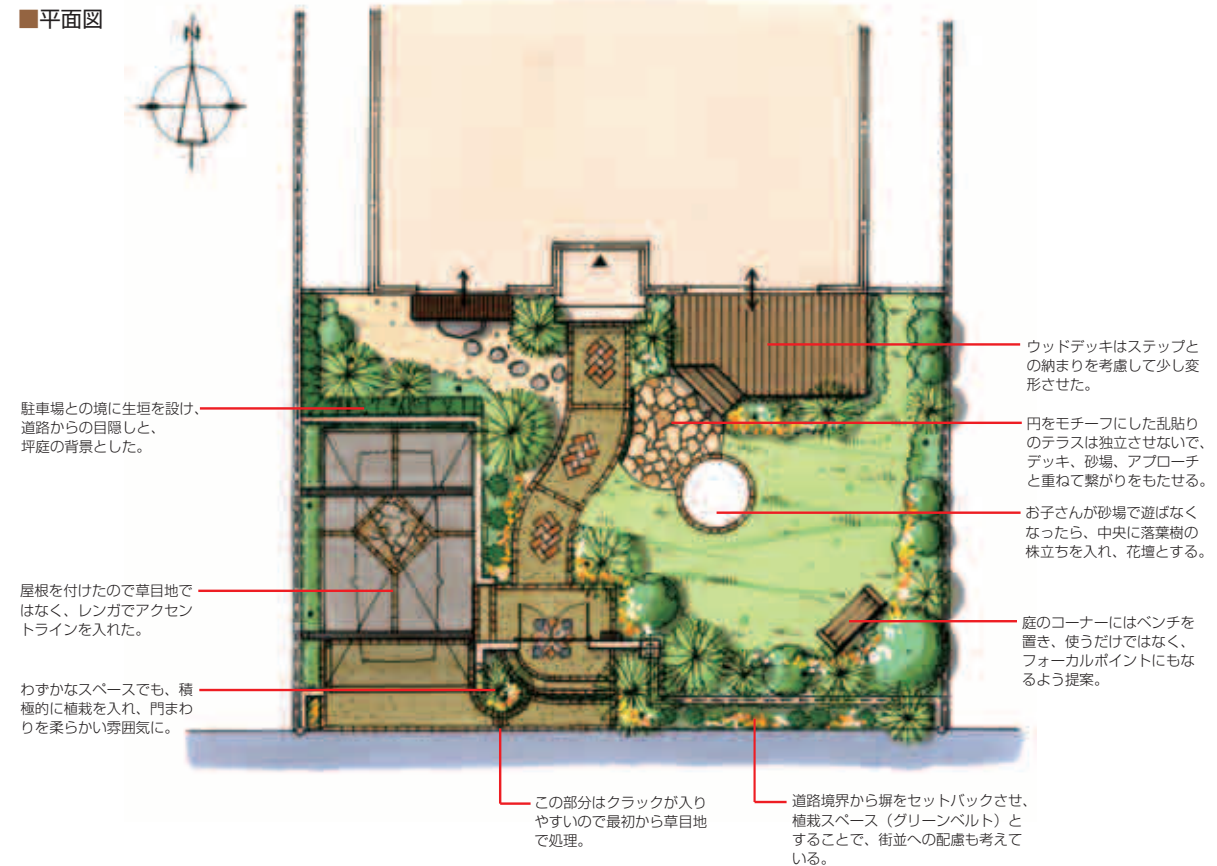


ワンポイントアドバイス
普段ゾーニング図はあまり描かないと思いますが、きれいに描けるとお客様への説得力が違います。また、エクステリアプランナー2級試験ではゾーニング図も要求されますのでしっかり描けるようにしておきましょう。

模範プラン

それではゾーニング図をもとに作成しました模範プランをご覧ください。
クローズドプランということで皆さんが考えられたプランと大きく違いはないかもしれませんが、細かいところの納まりや表現方法など、ぜひお手元のプランと比較しながらご覧ください。

平面図



立面図



イメージパース



このプランが正解というわけではありません。あくまでも一例としてご覧いただき、ご自分で考えられたプランと比較して、各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にいただければ幸いです。

Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

生年月日: 1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校校長一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

第2回目の課題について

それでは今回の新しい課題をご覧くださいませ。

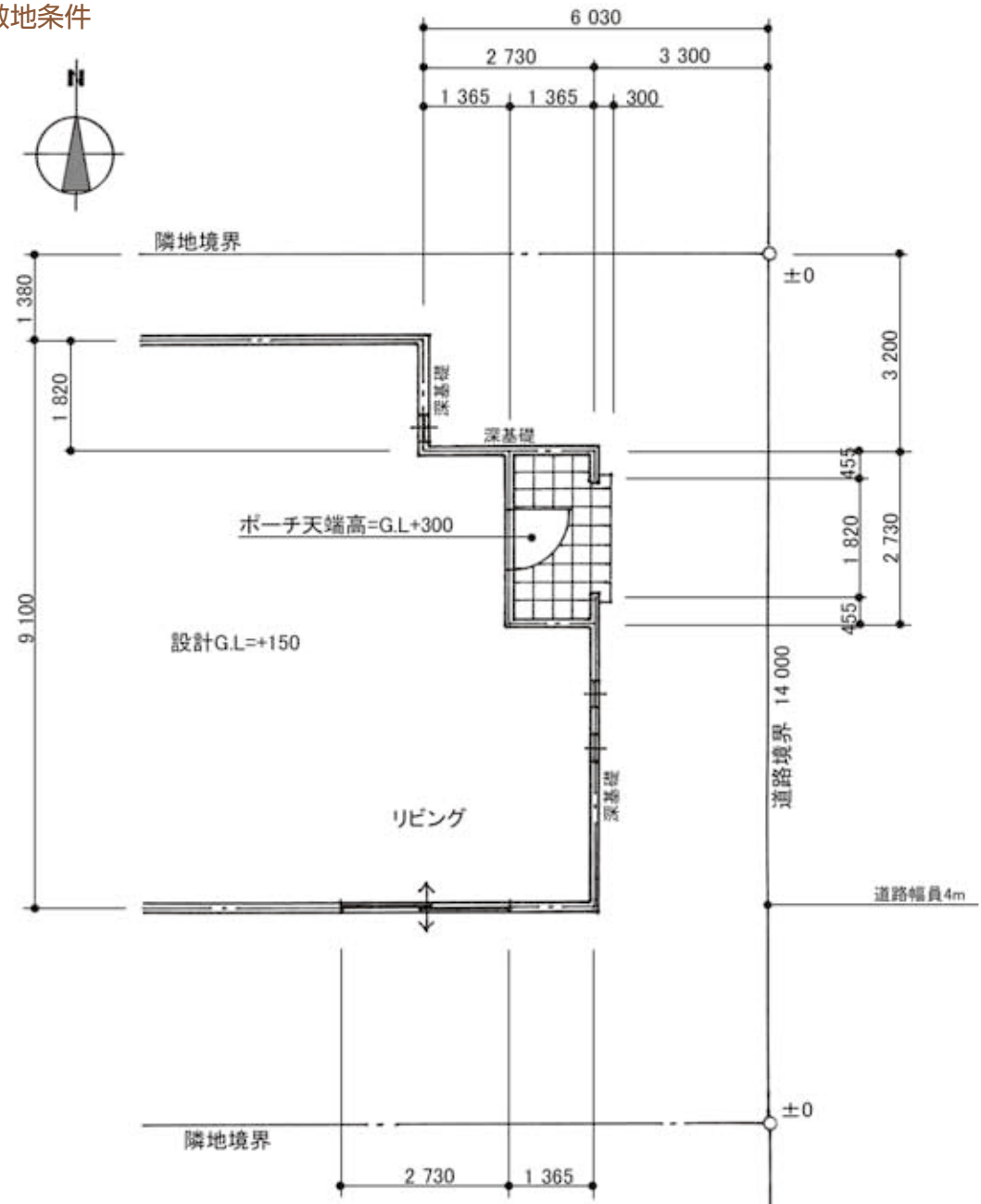
敷地条件は東入りで、道路と敷地の高低差は150mmとなっています。

下記の敷地条件や施主の要望をふまえて、ゾーニング図・平面図・立面図（可能であればパース図）を作成し、次号の模範プランと比較できるように準備しておいてください。

「私ならこう考える! ゾーニング手順と計画時のポイント」

今も私がプランニングする際に、どのようなことを考えているのかその一部をご紹介します。プランニングの参考にしてみてください。

1. 敷地条件

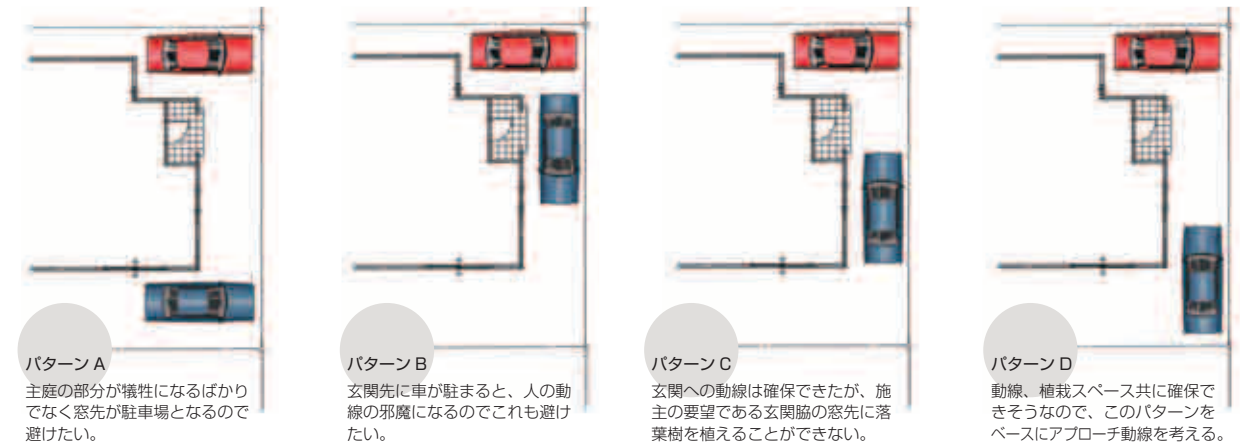


2. 施主の要望

- 東側のスペースに駐車場と門まわり、アプローチを提案して欲しい。
- 所有している車は1台だが、来客用も含めて2台分の駐車場が欲しい。
- 玄関ポーチは最上段のみ決まっているので、もう1段はアプローチと合わせて計画して欲しい。
- スタイルはオープンスタイルとし、植栽スペースを多めに確保して欲しい。
- 門袖又は門柱を設置して、ポスト、表札、インターホンを付けて欲しい。
- 玄関脇にあるリビングの縦長窓と道路の間に落葉樹を植えて欲しい。
- 駐車場（又は道路）から南側の主庭への通路を確保して欲しい。

1. 駐車パターンの検討

まずは駐車パターンについて考えてみましょう。北側のスペースはちょうどよいスペースがあるので、1台はここに駐めるとしてもう1台をどこに駐めるとかを考えてみます。



パターン A

主庭の部分が犠牲になるばかりでなく窓先が駐車場となるので避けたい。

パターン B

玄関先に車が駐まると、人の動線の邪魔になるのでこれも避けたい。

パターン C

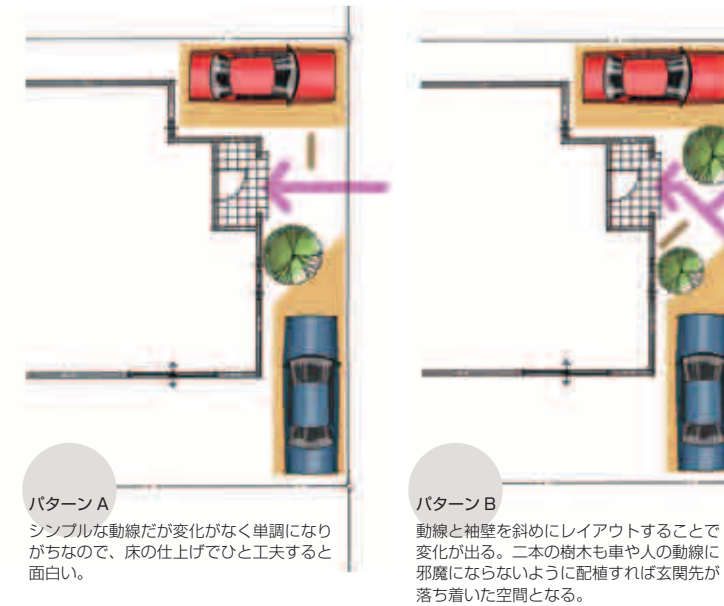
玄関への動線は確保できたが、施主の要望である玄関脇の窓先に落葉樹を植えることができない。

パターン D

動線、植栽スペース共に確保できそうなので、このパターンをベースにアプローチ動線を考える。

2. アプローチ動線の検討

アプローチの動線を考える場合、門袖壁や角柱、シンボルツリー、灌木類の植え込みスペースも含めて検討しなくてはなりません。



パターン A

シンプルな動線だが変化がなく単調になりがちなので、床の仕上げでひと工夫すると面白い。

パターン B

動線と袖壁を斜めにレイアウトすることで変化が出る。二本の樹木も車や人の動線に邪魔にならないように配植すれば玄関先が落ち着いた空間となる。

3. ステップの検討

道路から G.L. まで 1 段、G.L. から玄関のポーチ天端まで 2 段のステップが必要となるので、その処理を検討しましょう。

パターン A

一番シンプルなパターン。シンプルモダン系であればありだが、単調になるので注意したい。

パターン B

平行駐車となる車の動線と人の動線が交差する場合はポーチ際でステップを処理すると邪魔にならない。

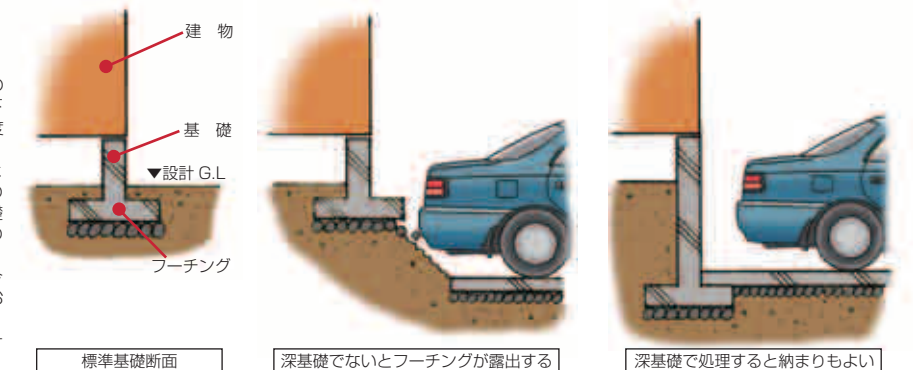
パターン C

広めのステップを平行にすらしながら、斜めの動線を確保するパターン。踏み面と蹴上げの境に草目地を入れると効果的。

ワンポイントレッスン

深基礎とは

一般的に建物の基礎は右図のように逆 T 型や L 型の形状をしていて、建物の荷重を地中に分散させて沈下させないようにしており、通常は地中に 30cm 程度埋まっています。狭小地や北入りの宅地では、基礎のすぐ際を駐車場とすることも少なくありませんが、この時道路と宅壁の高さ（設計 G.L.）の高低差が大きいと掘削により基礎の根入れ部分（フーチング）が剥き出しになり最悪の場合建物本体が傾くことにもなります。この場合、事前にエクステリア計画が出来ていれば今回の課題のように該当する部分のみ基礎を深くしておくことができ、問題は回避できるのです。このようなことから建物の計画とエクステリアの計画は同時進行で行うことが重要なのです。



標準基礎断面

深基礎でない場合フーチングが露出する

深基礎で処理すると納まりもよい

模範解答は次号で掲載、解説しますので、以上のことをふまえて素敵なプランを考えてみてください。

2006秋の新商品紹介 速報！「M.シェード」新発売

業界で初めての軽量かつ高強度な3次元プレートトラス構造の開発により、先進的な大開口でスリムなデザインのシェードが誕生しました。居心地のいいプレミアム新空間「ミュテリア」が提案する1つのカタチです。



さまざまな敷地条件に対応するために、豊富なサイズバリエーションを用意しています。



パネル材質

耐衝撃強度を高めた【ポリカーボネート板】を採用しています。(パネル厚：2mm) 紫外線ほぼ100%カット

パネル色

かすみ (SI)



クリア (CL)



カラー

さまざまな住宅様式に対応するために、スタイリッシュな2色を用意しています。

本体

SLC

■シルバー (つや消し) 色

UC

■アーバングレー色

屋根

共通

SI

■シルバー色

すっきりとしたシャープなシルバー色とモダンでシックなアーバングレー色の2色を用意しています。プレートトラスは共通のシルバー色となります。

人工木デッキ ひとと木 に新色登場

◆カラーバリエーション



【写真はスイートグレー】

御庭会通信

栃木御庭会 総会

7月4日 宇都宮東武ホテルグランデ

栃木御庭会では発足後初めての総会が行われました。発足初年度の事業報告及び平成18年度の事業案等つつがなく承認をいただき、無事に閉会となりました。また、あらたに鶴川建設様がメンバーに加わり栃木御庭会の今後のより一層の発展が期待されます。

東海御庭会 研修会

7月11日 オークラクトシティ 浜松

東海御庭会では衛エクスプランニングの古橋先生をお招きしてプランニング研修会を行いました。今回は御庭会メンバーの方々に事前に設計課題をお渡しして、各自のプランを発表していただく形式でした。出席されたメンバーそれぞれにこだわりをもったプランニングを発表し合い、貴重な勉強会になったことと思います。

東海御庭会 研修旅行

9月1日～2日 富山県八尾、氷見

東海御庭会では三協立山アルミ高岡本社での研修を含めた研修旅行を行いました。今回は八尾のおわら見物や氷見での早朝地引網体験など盛りだくさんの内容で富山の文化と自然を満喫されたことと思います。

東京地区御庭番ユーザー情報交換会

9月13日 関東EX支店会議室

東京地区のユーザー様を対象にした御庭番情報交換会を開催しました。御庭番の使い方や日ごろの苦労話等ユーザー様同士での交流もはかれて非常によかったのではないかと思います。御庭会発足を視野に入れた予備的の活動として、今後の継続的な活動を期待します。



ユニット掲示板 SPKA型

デザイン性と機能性がさらにアップ!



●本体裏面のねじを外すだけで、ボードの交換を容易に。
●扉は、左右開閉の引き違いで、フレームの下中央にはシリンダー錠を採用。
●扉の下框部分に引手を取り付け、扉の開閉をスムーズに。

御庭番スタッフ紹介

愛知県知立市
有限会社 須賀組様

商品を置くだけ、という簡単操作。3Dパースや絵柄のわかりやすさが魅力でハウスメーカーからの依頼が増えました

御庭番を導入したのは2年前、私が入社した翌年でした。内装関連のCADは学生時代に使用していましたが、エクステリアはまったく初めて。でも、最初の2日間の講習でだいたい理解できて、あとは見よう見まねで使ううちに、すぐ慣れました。



プランナー・須賀 舞様

御庭番は、商品が中に揃っていて、それを置いて並べるだけという感じで操作できるので、とっても簡単ですね。それに、3Dでどんな角度からのパースも簡単にさせますから、お客様に説明もしやすいんです。しかも絵がハッキリしていてリアルなので、手描きと比べて、すみずみまであいまいなところがなくわかりやすい。このわかりやすさが買われて、御庭番を入れてからハウスメーカーの依頼が増えました。父(社長)はこういうものは苦手で、私が御庭番で図面を引いていると、「すごい!すごい!」と喜んでます(笑)。

私の仕事は御庭番でプランするだけでなく、営業もしますし、現場にも行って、1人のお客様をプランから引き渡しまで一貫して担当します。ですから忙しいですが、やりがいもあります。ただ、御庭番は操作は簡単なんですけど、プランを創り出すのが大変で…。アイデアまで考えてくれるキカイはないかしら(笑)。お休みの日は車を運転して、旅行とか買い物に出かけることが多いですね。ふだんが忙しいので、休日はしっかり取るようにしています。そうでないと、リフレッシュできませんから。



EXTERIOR VIEW 2006
Vol.30

 三協立山アルミ株式会社

〒933-8610 富山県高岡市早川70
エクステリア建材事業本部 情報誌編集室 TEL.0766-20-2261 FAX.0766-20-2071
<http://www.exteriorworld.jp/>